

第1学年1組 算数科学習指導案

平成27年 11月17日(火) 2校時

指導者 教諭 井上 竜一

場 所 1年教室

1 本研究授業の提案

繰り下がりのある減法計算の場合について、計算の仕方を考えさせるための手だてとして、以下の二つを提案する。

- (1) 計算の仕方を考えさせる際、視覚的に捉えさせるためにブロック操作の作業を取り入れる。
- (2) ブロック操作によって考えた計算の仕方をワークシートに書かせることで、思考の過程を可視化させるとともに教師が見取ることができるようにする。

2 本研究の授業技術課題

- (1) 児童が理解しやすい方法で、資料を提示する。
- (2) 見通しを持たせることができる、簡潔な指示や発問を工夫する。

3 本研究授業で取り入れた言語活動

繰り下がりのある減法計算を考えさせる過程で、自分の考えをペアや全体に説明させる活動を取り入れることで、多様な考えに気付かせ、繰り下がりのある減法の意味を理解させる。

4 単元名 ひきざん

5 単元の目標

11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

6 指導計画(本時 1/13時間)

小単元	時	主 な 学 習 活 動
1 13-9のけいさん	①	13-9の計算の仕方を考える(本時)
	②	減数が9の場合の計算の仕方(減加法)
	③	減数が8の場合の計算の仕方(減加法)
	④	減数が9, 8の場合の計算練習
	⑤	減数が7の場合の計算の仕方(減加法)と減数が7, 6, 5の場合の計算練習
2 12-3のけいさん	⑥	12-3の計算の仕方(減減法)を考える
	⑦	11～18から1位数をひく繰り下がりのある計算の練習 文章題の解決
3 かあどれんしゅう	⑧ ～ ⑫	計算カードを用いた減法学習の練習
4 まとめ	⑬	学習内容の仕上げ

7 本時の展開

(1) ねらい

繰り下がりのある減法の計算の仕方について考える。

(2) 指導過程

段階	学習活動	指導事項・留意点・評価
つかむ	1 学習問題を知る。 かきが13こあります。せんせいが9こたべました。 のこりはなんこですか。	

見通す	2 課題をつかみ、見通しを持つ。 - これは何算の計算でしょうか。 →引き算 - どうして引き算になるのでしょうか。 →食べるとなくなるから。 →「のこりは」だから。 - 式はどうなりますか。 →$13-9$	「のこり」などのことばに着目させ、既習事項から立式が引き算になることを押さえさせる。
考える	3 $13-9$の計算の仕方を考える。 3から9は引けません。どうやって計算したらよいでしょう。 - 算数ブロックを使って考えましょう。 ① 13から1つつ引いていく ■■■■■■■■■■□□ □□□ ② 9を3と6に分け、13から3を引く、10から6を引く（減減法） □□□□■■■■■■■■→6とる ■■■■→3とる ③ 10から9を引き、1を3にたす（減加法） ■■■■■■■■■■□□ □□□□←←←←←↓	- 算数ブロックやワークシートを使って自分なりのやり方を考えさせる。その際、どのように考えたか、どのように算数ブロックを動かしたかなどをワークシートに記入させ、教師が見取る。 - ワークシートの上でブロックを操作させる。 - 三つの型が考えられるが、どのやり方も許容する。 - 机間巡視で、答えが見つからない児童には個別に支援するようにする。 <評価> 繰り下がりのある減法について、その計算方法を考えることができる。
確かめる	4 ペア学習で自分の考えを説明する。 - 隣の友達と考えを記入したワークシートを見せ合い、自分の考えを説明しましょう。 - 算数ブロックとワークシートを使って、みんなの前でお話ししてください。	数名の児童に書画カメラを使ってワークシートを映し出し、説明させる。児童の思考を見取り、三つの型を提示させたい。
まとめる	5 まとめをする。 $13-9$の計算の仕方には、いろいろなやり方があることが分かりました。 - 次の時間には、10のかたまりから引いていくやり方を詳しくやってみます。	次時では、減加法について学習することを知らせる。

(3) 板書計画

かきが13こあります。せんせいが9こたべました。のこりはなんこですか。		
① 13から1つつ引いていく ■■■■■■■■■■□□ □□□	② 9を3と6に分け、13から3を引く、10から6を引く □□□□■■■■■■■■→6とる ■■■■→3とる	③ 10から9を引き、1を3にたす ■■■■■■■■■■□□ □□□□←←←←←↓
$13-9=4$ こたえ 4こ		
まとめ $13-9$のけいさんのしかたには、いろいろなやりかたがある。		

(4) 本時の評価

具体的評価基準	繰り下がりのある減法について、その計算方法を考えることができる。 (観察・ワークシート・発言)
Aと判断する姿	繰り下がりのある減法について、自分の考えをワークシートに記入しながら友達に分かりやすく説明することができる。(観察・発言)
Cへの手だて	算数ブロックの動かし方を個別に支援し、繰り下がりのある減法についてについて、考えることができるようにする。

